

平成 29 年度第 2 回福岡市子ども読書活動推進会議議事録

日時	平成 30 年 2 月 9 日（金）10：00～12：00
場所	福岡市赤煉瓦文化館 会議室 3
議題	子どもの読書活動推進に関する課題等について
公開・非公開の別	公開
傍聴人の数	なし

1 開会

- (1) 事務局挨拶
- (2) 各委員の紹介（団体紹介）

2 報告

(1) 福岡市子ども読書フォーラムの実施について

報告資料に基づき、事務局が説明（省略）

委員長 ただいまの報告に対して質問やご意見等があればお願いしたい。

委員 毎年参加しているが、年々盛り上がっているようで、今年は来場者人数も増えて、途中で冷房を入れる程の盛り上がりだった。
会場ではスマホを操作している保護者が多かった。スマホに慣れている世代が増えているようだ。赤ちゃんの頃から、絵本を通して親子で触れ合うことが大切だと伝えていきたい。

委員 多くの方に小学校の活動を知っていただけて良かった。今年は、ペープサートなど参加型のイベントをして喜んでもらったのが良かった。

委員長 大変工夫をされていることがわかった。

委員 本の良さを知ってもらえる良い機会になった。体を動かす絵本を紹介してから、実際に体を動かして、絵本の世界観を体感してもらえるイベントなどをした。今後も本の良さを実感できるイベントを続けていきたい。

委員 何年か続けて参加しているが、地域の公民館やサークルの方にチラシを配った際に、

「去年も楽しかった。買い物ついでに少し寄る予定だったが、気が付いたら長い時間楽しんでいた」という声もあった。フォーラムが定着してきたと感じる。また、「たくさんの親子が参加されていたので、各地区のおはなし会などに足を運ぶきっかけになれば」という感想がフォーラムの反省会であったが、その通りである。

委員長 つながるということが大切である。

委員 フォーラムに参加したいと思っているが、地域の行事と重なっている。フォーラムの時期にはクリスマスおはなし会をしていて、参加の子どももその保護者も非常に楽しそうにしている。子ども達には、絵本を通じて行事などの意味、由来を知ってほしいと思っており、クリスマス会ではクリスマスについてのおはなしをした。地域での活動も大切にしていきたい。

委員 フォーラムの日は、保育園行事と重なっており、保育園行事の後に行かれることをお勧めしたが、残念ながらフォーラムに行かれたという声はなかった。私の勤務する保育園では、約 1,500 冊の本を保有し、毎週水曜日に絵本の日を設け、貸し出しを長く続けている。保護者からは知らない絵本を知ることができて良かったと感想をいただくこともある。

委員 フォーラムの感想に「スマホやパソコン動画などでは与えられない何か大切なものを、絵本を見て感じました」という意見があったが、こういう活動をずっと続けてほしい。私の勤務する幼稚園では、保護者が読み聞かせサークルを作って金曜日に読み聞かせをしている。近頃は動画に流れつつあるが、サークルの方には「地道な活動だがいつか必ず芽が出るから諦めないで頑張ろう」と声掛けをしている。

委員 フォーラムの感想を読んで、中高生の活動が素晴らしいと思った。また、中高生の読み聞かせを聞いている子ども達は次の世代で読み手になると思う。孫は小学校の図書委員で、図書の整理や、季節ごとのポップの作成などを行っている。また、月に 1 回給食の時間に放送でお勧めの本を紹介している。紹介する本を選ぶ時からドキドキしているそう。本を読んで感じたことや、ぜひ読んでほしい理由を一生懸命準備して放送している。それを聞いたクラスの友人が「上手だったよ」「私も読んでみたいな」とほめてくれたり、興味を持ったりしてくれたことが大変嬉しかったそう。地域文庫活動をしているときは、学校の図書活動はなかなか見えづらかったが、素敵な活動をしていると感じた。学校は様々な活動をしているので、色んな手段で図書に親しんでいく道があるはずだ。

委員長 大変素晴らしい活動を紹介してもらった。本が嫌いな子はいないと思っているが、その思いを強めるお話だった。

(2) 読書活動ボランティア交流会について

報告資料に基づき、事務局が説明（省略）

- 委員長 ただいまの報告に対して質問やご意見等があればお願いしたい。
- 委員 ボランティアをしたいという方はいらっしゃる。小学校での読み聞かせボランティア活動が発展して、公民館の図書整理や選書をしている方もいる。身近にもボランティアをしてくれる人はいる。発掘することが大事である。公民館に足を運んでいただけたらと思う。
- 委員 小学校で読み聞かせをしている方が、地域で核となって読書活動が広がっていくことは大事である。
読書活動ボランティア交流会について、熱意はあるが全く経験がない方に対しての研修はどのように企画するのか。
- 事務局 図書サービス課で読書ボランティア養成講座を受けている人に読書活動ボランティア交流会を紹介している。今後もその講座と上手く連携していきたい。
- 委員 読書活動ボランティア養成講座受講者に活動場所としてブックスタートボランティアを紹介してもらっている。それがきっかけでブックスタートに加入される方も多くいる。この養成講座で読書活動ボランティア交流会の紹介をぜひ続けてほしい。
- 委員 公民館でも読書活動の養成講座を選択開催することも可能なので頑張りたい。
- 委員長 ある公民館で読み聞かせ講座をしたことがある。また、おはなし会の方など福岡には多くの読書ボランティアの経験者がいるので、地域の方に基礎講座をするという方法もある。
- 委員 ボランティアは責任もあり難しい。高齢の方にはリストの記載方法などの実務を繰り返し伝えることも多く、その方のためにボランティアの人員が必要になることもある。それでも、大先輩の方とボランティアをすることで若いスタッフの学びにもつながる。絵本の読み聞かせは、絵本が子どもによく見えるようにする、抑揚を付けず絵本の内容に入りやすいようにするなど、読み聞かせの基本がたくさんあり、初めから上手く読める人は少ない。もし、上手く読めなくて自信が無くても、純粹に絵本の良さを感じる方がいたら是非加入してもらいたい。十人十色の読み手の声を大事にしたいし、読み聞かせをしなくても、できる範囲のことをしてもらえたらと思う。
昨年は4名の方にボランティアとして加入していただいた。少しずつだが、活動をしてきて良かったと感じている。

(3) 公民館文庫・地域文庫交流会について

報告資料に基づき、事務局が説明（省略）

- 委員長 DVDに出てくる石井桃子氏の「ポストの数ほど図書館を」という考えは図書館の歴史に大いに影響を及ぼした。
ただいまの報告に対して質問やご意見等があればお願いしたい。
- 委員 公民館文庫・地域文庫交流会で上映したDVDの内容に励ましをもらった。一緒に参加した若いスタッフとともに感動した。
文庫同士の交流では、同じグループの中に、たった一人で文庫活動を続けていて、自分は文庫を閉める役割でないかと感じている方がいた。その方に対して、できる範囲で活動を続けたらいいのではないかなど、様々な意見があった。
今の時代、多くの人におはなし会をすることより、来られた方たちを丁寧に迎えてゆっくり本を読んで伝えていくことの方が大事ではないかという意見もあった。
市内のあちこちに小さな温かい文庫が継続的にあることが大事という結論になった。
公民館文庫・地域文庫交流会は、学びを共有したり、支えあったりする大事な場所である。
- 委員 小さな活動から初めて十数年間試行錯誤しながら文庫活動を続けてきた。お雛様会など新たな試みもしたが人が集まらないこともあった。それからは、重点的な取り組みを決めて活動している。
スタンダード文庫を大切に使用するためにブックカバーを掛けることを検討したが、ブックカバーの予算の関係もあり意見が分かれている。本の保管方法も考えなければならぬ。
- 委員 本を大事に扱うことは重要である。
- 委員長 できるだけ長く多くの方に使っていただけたほうがいい。
- 委員 スタンダード文庫は本の中身が良く、利用者に喜ばれているので、是非続けてほしい。

3 協議

(1) 子どもの読書推進に関する課題等について

① 各団体の活動状況紹介

委員長 各委員の方から、活動団体の事業のPRや活動上の課題、今後力を入れていきたい取り組みなどの報告をお願いしたい。

委員 私たちのボランティア団体は区ごとに分かれて、4か月児健診の時に保護者に絵本を手渡し、保護者に読み聞かせをしてほしい旨を伝えている。ボランティアの人数は少なかったが、読書活動ボランティア養成講座受講者の方がボランティアに加入することなどで上手く回っている。

4か月児健診の待ち時間に、赤ちゃんのお兄ちゃんやお姉ちゃんにスマホを与えている保護者をよく見かける。人間の声が大事ということを伝えていきたい。また、赤ちゃんでもしっかり声を聞いているということを保護者に伝えると驚かれる方もいる。保護者の方にはよく伝わるので、もっと知ってもらいたい。

委員長 知ってもらうことが大切である。

委員 小学校で読み聞かせをしているボランティアの方はPTAの組織とは違うが、協力してもらっている。PTA組織ではないので、子どもが学校を卒業した後も続けて地域の方として活動してもらっている。

委員 学校司書は、学校図書館が読書センター、学習・情報センターとしての機能を果たすために資料を整理し、学年の先生と連携して学習支援を行う。また、国語の時間や総合の時間を活用して読み聞かせを行っている。様々な活動を通じて子ども達の読書活動を推進している。中学校では年間12回、月1回の4時間の活動なので、本の購入や廃棄などの環境整備に追われている。
質問だが、子ども読書活動推進計画（第3次）に記載のある「学校図書館全体計画」は既に提示されているのか。

委員 2月中旬の学校図書館担当者連絡会で次年度に向けての計画策定の要領、様式を提示して作成を依頼する予定である。計画の目標設定をした後、検証まで行うことを大切にしたい。

委員 学校司書の来年度の配置予定はどうなっているか。

委員 次年度予算案に関わることなので、現段階ではお答えすることはできない。

委員長 前向きに検討していただきたい。

委員 司書教諭は各小学校内で読書活動を推進させるために、図書委員会活動の活性化などを目標として活動している。図書委員は、毎月23日の「福岡市子どもと本の日」にお勧めの本を紹介したり、休み時間に図書館で読み聞かせを行ったりしている。課題としては、学校司書との連携があげられる。司書教諭ではどうしても不足する部分を学校司書に補ってもらいたい。例えば、教科関連の本の選書などを司書教諭だけでなく学校司書とお互いに相談しながら行いたい。

委員長 司書教諭と学校司書の連携が学校全体の底上げにつながる。

委員 私達の研究委員会は、月に1回集まり研究している。学習・情報センターとしての取組みを重視して、授業を通しての活動を進めている。昨年度は国語中心だったが、今年度は国語だけでなく生活科や総合的な学習の時間を中心に色んな教科で図書館の本を活用している。現在、図書委員を通じての読書活動の工夫や子ども読書フォーラム等について記載した記録誌を作成しており、年度末に学校に配付し、活用してもらう予定である。

委員 私が活動しているNPOでは、子どもとメディアの環境を考えるためのフォーラムを2年に1度開催している。今年は約650名の参加があった。現在は子どももスマホ社会に直面しているが、その中で子どものどこを育てるかということが読書活動に強く結びついていると感じる。また、県の事業で啓発活動を行っている。小・中・高・特別支援学校、地域で約1,200コマの啓発活動をしている。新年度のプログラム編成の際には子どもと読書との関係を入れたい。

委員 公民館にはスタンバード文庫があり、地域文庫が活動しているところも多い。また、読み聞かせ講座などを行っているところもある。身近な場所にある公民館に本があることを発信していくことが大事である。

委員 各区の保健福祉センターで4か月児健診の際に、ブックスタートボランティアの方が本の楽しさや大切さを保護者に伝えるとともに、本を配付する事業を行っている。平成27年度に実施した子どもの読書に関する実態調査では、未就学児を持つ保護者の35.5%がこの事業がきっかけで読み聞かせを始めたと回答している。また、別の調査では、読み聞かせをしている家庭が88%、読み聞かせの影響として親子の触れ合いの時間が増えたという家庭が63.2%だったことから一定の効果があると考えられる。それから、平成29年7月から母子健康手帳に日本小児科医会の「スマホに子守りをさせないで」のチラシを掲載している。

- 委員 図書館としては、子どもの発達段階に応じた読書に親しむ機会の提供、ヤングアダルト世代に対する読書活動の支援、学校図書館の支援、地域の読書活動の支援という4つの柱で施策を展開している。
- 図書館としては全世代に向けた魅力的な図書館づくりを進めているが、子どもにとっても図書館が当たり前になるような図書館づくりを進めたい。
- それから、総合図書館、各分館、団体の文庫の蔵書にも努めていきたい。
- 委員 子ども達の読書教育と図書館教育の充実に力を入れている。読書センター、学習・情報センターとして、人、モノ、情報のサポートをしている。人との関わりは人を増やさないとできないが、情報の共有を工夫することはできる。平成32年度の新しい学校指導要領に関連するリストなどをそれぞれの学校で作成するのではなく、リストを情報として一元化して学校に発信することによって、各学校が要する時間を削減できる。それで、子どもたちに直接かかわる時間を確保する。平成32年度の新しい学校指導要領に向けての取組みに力を入れて情報を発信していきたい。
- 事務局 子ども読書活動推進計画（第3次）の重点施策で発達段階に応じた子どもと本とメディアのよい関係づくりがあるが、生涯学習課は出前講座でメディアとのよい関係づくりの講座を開催している。その講座ではメディアの使用方法やルール作りについて話すとともに、メディアに代わるもっと魅力的な体験の必要性を伝えている。家庭の中での体験としては読書があるが、読書はメディアと違って双方向に人との関係があり、特に子どもへの読み聞かせは視覚や音に加えて、お父さんの膝の温もりやお母さんの匂いなど五感の刺激がある。そういった気持ち良い時間の日々の積み重ねが脳の中に定着することにより、小・中学生になった時の「学ぶ力、考える力、仲間意識」などを形成すると伝えている。
- 委員 子ども達は本が好きだが、家庭でどこまで本を通じたスキンシップができていないかわからない。
- 私の勤務する保育園では玄関前に年齢に応じた人気の絵本を並べて、保護者に方にも興味を持ってもらうようにしている。NPOに啓発に来てもらったこともある。子どもだけでなく、親にも興味を持ってもらった方がより発展していく。保護者も仕事や家事で多忙だと思うが、子どもが小さい時から絵本を通して親子で触れ合うことに目を向けてもらいたい。
- 子どもの頃から絵本が好きな方は、大人になっても好きで、いつか素敵な親になると思う。
- なみきスクエアで本を借りる親子もいるが、今後も図書館や公民館の本の利用を根気よく呼び掛けたい。
- 委員 私の勤務する幼稚園では、保育活動の中で読み聞かせをしている。室内に絵本のコーナーがあり、金曜日には絵本の貸出をしている。

中学生の職場体験では、中学生に読み聞かせをしてもらう。その際に中学生は幼稚園の頃に読んでもらった絵本を選択する。子どもへの読みきかせは、すぐに芽が出なくても、何年後かに芽が出ることを職場体験で実感した。

家庭の状況によっては、絵本の良さが伝わりにくい場合もあるが、教師には諦めないでと伝えている。若い教師が増え、世代も変わってくるが、本好きの教師を育てるのが私の役割だと思っている。今後は幼稚園連盟で開催する教師や母親学級に対する研修に力を入れたい。

委員

総合図書館では読書活動ボランティア養成講座を開催している。春には読み聞かせ講座、秋にはストーリーテリングを開催している。講座では、地域文庫マップを配付して今後のボランティア活動につなげている。

また、今年度も公民館文庫・地域文庫交流会を生涯学習課と共催で開催した。交流会では地域文庫のスタッフ不足が多くあげられていた。解決策として、小学校のボランティアの方に地域でも活動してもらおうという案があった。

学校図書館支援センターとしては、今年度までに市立全小中学校及び特別支援学校を訪問することができた。その訪問記録をまとめて、今後活用していく予定である。

委員

私たちの団体は、市内の小中学校で読み聞かせをしているボランティア団体のネットワーク作りをしている。学習会を年に2回開催し、そのうち1回は交流会もしている。登録しているのは約50団体で皆さん熱心に学んでいる。

6月頃に初めて読み聞かせ講座を開催し、定員を超える多くの応募があった。本の選び方、プログラムの作り方など参加者の細かい悩みを多く共有した。2学期3学期には、フォローアップとして、高学年向け、特別支援学級向けの講座などを開催する。

ボランティアをされている方は、学校によってそれぞれの悩みがあり、根本解決は容易ではないが、情報交換をすることによっていくつかのヒントが得られると思う。また、それぞれがボランティア活動をするによって、一市民として子どもの読書活動について考える良いきっかけになると思う。

この活動を、細く、長く、丁寧に続けて、学校でボランティアをしている方の一助になりたい。

委員

私の活動する文庫は17年目で現在は14名で活動している。30代から80代まで様々な年代のスタッフがいる。いろんな感受性をもっている方と団体貸出の選書をする。スタッフが好きな本や、未就園児やその保護者が読みそうな本を選んでいる。公民館文庫・地域文庫交流会で課題としてあがっていたが、私の所属する文庫でもスタッフがもう少し加入してほしいという希望がある。地域の方に、文庫活動の楽しさや魅力を伝えて加入を呼び掛けている。口コミが最も有効だと思う。文庫活動は、無理せず、それぞれが小さな楽しみを見つけて、細く、長く活動することが重要である。

それから、最近気になるのは、未就園児がタブレットを見ていることである。保護者はタブレットを見せると子どもがおとなしくなると言う。文庫には保護者自身がリフレッシュに来られることも多い。子どもがタブレットなどでおとなしくなり、保護者の気持ちがゆったりすることで初めて本と向き合える場合もある。時代の流れもあるようだ。

親が本好きで、家庭に本がある子どもは、本好きになることも多いが、様々な家庭事情があるので、地域の中に身近に本がある環境を整えることが必要である。

委員 私勤務する公民館では、様々な国の絵本をその国の言葉で読んでもらうという講座を21年間続けている。今まで40ヶ国、約260人の方が参加された。講座でボランティアとして絵本を読んでもくれた方は、現在も様々な場所で活躍されている。この講座の目的は、小さい頃から国際理解をしてもらうことと、外国語の音を知ってもらうことである。肌や髪の毛や目の色が違ってみんな一緒であるということ子ども達に知ってほしい。講座では、結末以外のあらすじを子ども達に伝えて、外国語で読み聞かせをして、子ども達が真剣に結末を推測している。また、外国の歌や遊びも伝えている。講座に参加された保護者が近所のスーパーで楽しそうに中国の歌を口ずさんでいた。子ども達の中にもそれが入り込んでいることが嬉しい。公民館は身近なところなので自由に利用してもらえたらと思う。小学校でボランティアをしている方に協力してもらい、自由に本を読んでもらう時間をつくっている。

委員長 ご紹介いただいた取組みに対して意見や質問は。

委員長 司書教諭の授業時間は軽減されているのか。

委員 私の学校では軽減されていない。司書教諭として活動する時間帯は子ども達の休み時間に限る。

委員長 司書教諭の授業時間が軽減されると学校図書館がもっと活性化されるはずである。

委員 司書教諭としての役割は、校務分掌の一つである。授業時間を軽減する代わりに図書委員会活動などに力を入れている状況である。

委員 学校図書館の読書センター、学習・情報センター機能を活性化していくためにモデル校を作ると聞いていたがどうなっているのか。

委員 先進的な取り組みをしている小学校を会場として司書の研修している。学校図書館は学校長の運営方針を基に司書教諭と連携して運営している。また、中学校へは、それぞれの教科の先生に学習センターとして図書館を活用してもらうことの重要

性を発信している。

委員 小学校での保護者の読み聞かせの活動は、専門委員会としての活動なのか。

委員 保護者の読み聞かせの活動は、ボランティア活動であり、PTAの専門委員会としての活動ではない。そのため、子どもの卒業後も含めて自由に活動している。ただし、「子どもたちの健全な育成を図る」という目的はPTAと同じであり、活動の場所を共有することもある。